

CW 複体のコホモロジーは普遍係数定理により、CW 複体のホモロジーとほぼ平行した議論ができる。

Proposition 0.0.1

X を CW 複体とし、 A をその部分複体とする。 $n \neq m$ ならば、 $H^m(\overline{X^n}, \overline{X^{n-1}}) = 0$

proof) $i : \overline{X^{n-1}} \rightarrow \overline{X^n}$ は cofibration であるから、

$$H^m(\overline{X^n}, \overline{X^{n-1}}) \cong \tilde{H}^m(\bigvee S^n) \cong \prod \tilde{H}^m(S^n)$$

であるため、 $n \neq m$ ならば、 $H^m(\overline{X^n}, \overline{X^{n-1}}) = 0$

Proposition 0.0.2

X を CW 複体とし、 A をその部分複体とする。このとき、 $H^n(\overline{X^n}, \overline{X^{n-1}}) \cong H_n(\overline{X^n}, \overline{X^{n-1}})$ [#]

proof) $H_{n-1}(\overline{X^n}, \overline{X^{n-1}}) = 0$ であったので、普遍係数定理より成立する。

Proposition 0.0.3

X を CW 複体とし、 A をその部分複体とする。 $m > n$ のとき、 $H^m(\overline{X^n}, A) = 0$

proof) ホモロジー参照

Proposition 0.0.4

X を CW 複体とし、 A をその部分複体とする。 $m < n$ のとき、inclusion に対し、

$$i^* : H^m(X, A) \xrightarrow{\cong} H^m(\overline{X^n}, A)$$

proof) ホモロジー参照

Definition 0.0.5

X を CW 複体とし、 A をその部分複体とする。ホモロジーの時 cellular chain を思い出すと、 $C(X, A) = \{ H_n(\overline{X^n}, \overline{X^{n-1}}) \partial_* \}$ であった。この双対 $C^\sharp(X, A)$ が定義できるので、cellular cochain と呼ぶ。

Theorem 0.0.6

X を CW 複体とし、 A をその部分複体とする。 $C^\sharp(X, A)$ のコホモロジー群は (X, A) の特異コホモロジー群と同型である。つまり、 $H^*(C(X, A)) \cong H^*(X, A)$

proof) 次の図式

$$\begin{array}{ccccc}
 H^n(\overline{X^n}, \overline{X^{n-1}}) & \xrightarrow{\cong} & H_n(\overline{X^n}, \overline{X^{n-1}})^\sharp & \xrightarrow{=} & C^n(X, A) \\
 \delta^* \downarrow & & (\partial_*)^\sharp \downarrow & & \downarrow \delta \\
 H^{n+1}(\overline{X^{n+1}}, \overline{X^n}) & \xrightarrow{\cong} & H_{n+1}(\overline{X^{n+1}}, \overline{X^n}) & \xrightarrow{=} & C^{n+1}(X, A)
 \end{array}$$

は可換となり、左側の

$$\delta^* : H^n(\overline{X^n}, \overline{X^{n-1}}) \longrightarrow H^{n+1}(\overline{X^{n+1}}, \overline{X^n})$$

に対し、 $\text{Ker} \delta_n^* / \text{Im} \delta_{n+1}^* \cong H^n(X, A)$ が成り立つことは、ホモロジー群の時と同様の方法で証明できる。よって、 $H^*(C(X, A)) \cong H^*(X, A)$